琉球大学学術リポジトリ

重光外務大臣訪米関係一件　重光・ダレス会談

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-05-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/45926

極秘

A'1.4.1.2-5

電信写

昭和三〇　一〇五二五　暗　ワシントン　八月一九日二〇五〇発　欧長
一〇五二六　本　省　二〇日一二一五着
一〇五三〇
一〇五三一

重光大臣　井口大使

（米軍の日本撤退問題等に関する件）

第一一二六号（極秘・館長符号扱）

貴大臣の国務長官との会談に関連し日米間重要懸案に対する国務省部内の動向に関し十九日往電第九四〇号の筋（島公使承知）よりの情報何等御参考まで左の通り。

本件情報は在京米大使館へ引用なきよう特に御注意ありたい。

一、防衛問題

(イ)貴信欧米一第七三九号付属「二」の件

一応の研究は行われたが国務省上層部は本件に関しては極めて消極的であり、日本側提案に若干の修正と留保を付し

外務省

記録済

電信写

た事務当局案を作成したがこれはアブルーブされなかつたので米側対案は出来ていない。第一の問題は日本の長期計画が如何なるものであるかの点であり、右が明らかにされない限り米軍の全面撤収を云々することは不可能である、又米側の立場から考えた場合における各種の条件がある。更に相互防衛のコミツトメントに対する日本の世論の動向如何と云う本件成否の前提条件もある、具体的な問題として米軍撤収を条約中に規定することには反対の意向が強い、これは緊急事態の場合の問題があると同時に将来真に日本防衛を行わんとすればやはり基地供与の規定を要するのではなかろうか、撤退問題は形式的にも交換公文とすることが適当であろう、又将来朝鮮、台湾で有事の際における共同体勢についても講和条約の時と同様の交換公文を必要とする、いずれにせよ上層部は慎重であるから重光大臣来訪の際具体的な点まで合意することは不可能であろう。

電信写

(ロ)日本の防衛計画

東京でフォースゴールに関する日本側の諮問に対して、極東軍は従来と同様の地上部隊三十万其の他の案を出した様だがこれは問題である。現在米政府の考え方は当面日本側の六ケ年計画程度のものに同調し着実にこれが完成を期すると云うのが大勢である。但し従来より本件に関しては二つの考え方があり、一つは上述の如き現実論であり、他は日本の潜在力より見て中共の軍事的圧力を相殺するが如き日本の軍事力の再現を期待すると云う考え方である。

(ハ)在日米軍撤収問題

一時混乱を生じた本件も往電第九二六号のライン即ち空挺隊を残すのみで他は一年以内に撤収の線で纏りかけている。但し今後国防部の方針変更の可能性は残されている。

（第一一二六号の三）

電信写

（二）分担金

本件に関し毎年紛糾を生じない様に或る種の方式を考究中である

が国防部へ送つた国務省案は本年度の分担金三八〇億円を二五％

づつ減額して四年後には零とする。但し右減額分が防衛庁費増額に

充当されるのは当然として、防衛費総額の国民所得に対する比率

が毎年多少とも上昇するが如き防衛予算を編成すると云うにある。

右に対し国防部よりは未だ回答に接していない。安保条約を相互

防衛条約に改訂することに依り分担金の如き金銭的債務は解消す

ると云う考え方に対しては、ダレスは日本は韓国、国府と異なり

アジアの大国であり、欧洲NATO諸国は共同の防衛体制のため

軍事施設構築等に莫大な経費を充てゐる点を指摘するだろう。

（続く）

外務省

電信写

（第一一二六号の五）

(六)原爆持込問題

日本側から提起しない限り米側としてこれを取り上げることは聞いていない。

二、日ソ交渉

領土問題に関し将来極東問題全般に関する国際会議、大国間の話合の際における米国の日本の要求支持の問題はダレスは台湾問題との関係において種々考えている様である。

三、中共貿易

大勢としては中共に関する経済封鎖をゆるめざるを得ないであろうが米国としては現在の措置を共産圏との今後の交渉上有利な武器であると考えており少くとも現在の米中共間の政策変更は困難であろう。

（続）

外務省

電信写

（第一一二六号の六）

四、領土問題

沖縄は今後日本から撤兵と共に益々戦略的に利用されることとなり小笠原現住民帰島問題も海軍の反対は依然として強く日本側の要請に応ずることは望み薄である。

五、戦犯

東北アジア局としては本件解決促進には懸命の努力を行つている単に重光大臣来訪当時出来るだけ多数の釈放を行うのみならず将来釈放を容易ならしむるため内閣手続の変更を考えている。但し会談直前ダレス不在となるのでタリヤランスの問題に困つている。

六、ガリオア

重光大臣に対し早期解決の必要性はリマインドするがこの際あくまで明確なコミットメントを要求しこれをプレスすることはあるまい。

配布先　大臣、谷顧問、次官　「欧米」　「条約」

極秘

日米間軍需業件に対する米政府部内の意向に関する件

八、二五

大臣の国務長官との会談に備え、国務省は国防省その他関係庁と協議の上、いわゆるポジション・ペイパーを今週始め完了し、更に引続き協議を行い、会談において取るべき米側のポジションについて国務長官に意見上申を行つているが、右に関する米政府部内の動向に関し係官の内話等を綜合せるところ左の通りである。

一、防衛問題

(イ)日本の防衛計画

往電第一一二六号の事情の外、国務、国防両省会議の際国防部は大臣が携行せられると伝えられる防衛計画案に関し、これが政治的、法律的且つ財政的裏付に対し疑義を表明せる由。

(ロ)在日米軍削減問題

冒頭往電の確度に若干の疑問あるも大勢は右の通りと判断せらる。但し国防部内部の方針の変化、東亜情勢推移如何に係るところ勿論であり、沖縄における米軍の土地取得の問題が関連している。

(ハ)防衛分担金

4/6

冒頭在電国務省試案における防衛費総額の国民所得に対する比率を条件とすることは経済関係担当者の発案なる由であるが、その後かゝる複雑な要素を取り入れることは好ましくないとの考え方よりドロップされた由。なお分担金を二五%ずつ毎年削減して四年後に零とする案に対しては国防部も内容的にはゞ同調を示したが、この際かゝる具体的な形における提案は行わないこととなつた趣である。なお、係官は本件は日本の六ケ年計画及び米軍削減問題との関連において討議する方針となつており、東京における交渉への道を開くつもりであると内話した。

本件に関し米側が具体的提案を差控えるに至つた理由としては、将来日本の防衛六ケ年計画実施の確実性に国防部が疑義を有することと極東軍の意向を十分確めることなく華府においてかゝる具体的提案を行うことを国防部が躊躇せるものと見られるが、華府に比し米側東京出先は常に強硬な態度を持する傾向あるにかんがみ、この際話し合いを行い、且つ何等かの了解に達し、これを会談後のプレスリリースに織り込むこと必要と思考される。（国務省はプレスリリース第二次草案に to reach definite conclusions which may be valid for the next several

（法律ニ限リ具体的）

との表現を用いているが第三次草案はこれを削除している。）

(二)安保条約問題

電信往電及び第一一二八号後国務、国防両省協議の結果、条約改訂には原則として賛成であるが、この際内容に亘つて結論に達するのは時期尚早である。又在日米軍撤収を条約中に規定しない方がよいという程度の案をダレスに提出した由。（両省事務当局の考え方は現在日本の自衛力増強が進行し、米軍も漸減を開始している過渡的時期であり、この傾向が今少し進展した時期が条約改訂に適当であると言うにあつた由。）事務当局はダレスは相当慎重な態度を取ることを予期していたところ、二十四日事務当局より意見具申の際ダレスは本件に関する大臣との意見交換に相当の熱意を示しおる趣である。なお係官はダレスはサブライジング・アイディアを示すかも知れないと述べたので、更に打診に努めたところ、他の係官は日本の提案は米軍、米軍塁となつているが、ダレスは米国と日本との間には米比型（ようの約）が必要であると考えている。但しこの際この考え方をプレスすることはないと思う。と内話した。但し右がいわゆるサブライジング・アイディアであるかは不明である。

なお、国防省担当官も国防部としては日本との関係においては米

比型の条約を着望していると述べた。

二、領土問題

沖縄の地位に関する日本側要請に対する米側意向は否定的と見られる。小笠原帰島問題、南洋群島漁業基地問題も海軍側の強硬反対で従来よりの米側立場に動きなき由である。なお本件に関する米政府部内の会議において米海軍は少数でも日本人を入れることは、結局は日本人がこれら島嶼をドミネイトすることとなるとの主張をなしたる趣である。

三、戦犯

国務省北東アジア局は本件に対し熱意をもつて解決に努めているが大臣在華前後に釈放されるのは二〇名程度に止まる旨係官は内話している。なお今後の釈放促進のため何らかの内部指置を講ずるとの事務当局案がある趣であるが、係官は右がダレスの決済を得ると否とに拘らず、今後の釈放は促進されるであろうと述べている。

四、ガリオア

米政府関係庁会議で主として財務省より本件解決を常にリマインドされているので、国務省事務当局は会談中国務長官よりこれを取り上げるようリコメンドせる由である。係官は一応取り上げるが特にプレ

スすることはないと述べているが、本件は一昨年ロバートソンが池田氏に対し相当強く解決を要求せる経緯もあり右は確度不明である。（米側はプレスリリースの第二、第三次案に本件に言及している。）

五、兵器産業発注増加問題

従来の交渉における米側立場には変化はない。

六、在日米人所得税問題

本件国務省に若干のプレッシャーがかゝつているので取り上げるようリコメンドしたと係官は内話した。（プレスリリース第三次案において本件に言及している。）

大臣 谷大使 次官

極秘

[redacted]

米局長 次 長 第一課長

政第三〇四四号

昭和三十年九月八日

在米

特命全権大使 井口貞夫

外務大臣 重光葵殿

大臣、国務長官会談に関する国務省係官

ブリーフィング速記録送付の件

八月三十一日貴大臣、国務長官会談に関する共同声明発表直後における国務省マクラーキン東北アジア局長の新聞記者に対するブリーフィングの国務省速記録二二に送付する。

[redacted]

[redacted]

在外公館

別紙送付

3049.13

228

了 記帖

本速記録は本省において国会資料等作成の場合の基礎としてのみ利用するとの約束で入手したものにつき直接引用するかごとき ことなき様特に御留意ありたい

在外公館

CONFIDENTIAL

EXCERPTS FROM BACKGROUND PRESS AND RADIO NEWS CONFERENCE, WEDNESDAY, AUGUST 31, 1955.

Q In the second paragraph of the communique, on page 2, it speaks of: "Japan could, as rapidly as possible, assume primary responsibility for the defense of its homeland and be able to contribute to the preservation of international peace and security in the Western Pacific." Does that indicate an extension of Japan's defense responsibilities which are now outside of their capability because of the constitution?

A Yes. I think both they and we, however, have looked forward to this as a possibility and as the paragraph you quote points out, the time is not yet here. It is still something which is off in the future but which is a goal of effort.

Q In that paragraph, the last words: "greater mutuality," what exactly does that mean?

A A mutual defense treaty rather than the present security treaty, although the precise form and all the rest of it wasn't talked about, but the present security treaty says specifically that it is a provisional arrangement and the preamble refers to the expectation that Japan will increasingly assume responsibility for its own defense and this is really just one milestone noted in the movement toward what the security treaty had envisaged.

Q I am coming back to Paragraph 2, Page 2 again, Line 4, which reads: "...be able to contribute to the preservation of international peace and security in the Western Pacific." That means during the conversations you both had in mind some time in the future Japanese troops might be sent outside of Japan for the preservation of international peace and security in the Western Pacific.

A Yes.

Q With

Q With regard to the sending of Japanese forces abroad outside of Japan, did the Japanese discuss the matter with that in mind? Were they ready and willing to do that?

A They recognized quite clearly, I think, that this is a possibility which would arise if there were a change in the form of the treaty. This is clearly not something that is imminent any more than a change in the form of the treaty is imminent but it is the kind of problem which does arise if the form of the treaty is changed, so that Japan incurs an obligation for the mutual defense or collective defense in the area.

Q Was that predicated on a change in the constitution of Japan?

A That was one of the things that was talked about as possibly necessary.

Q Is that considered a prerequisite by the United States?

A So far as the United States is concerned, we really have no judgment. The question is whether the Japanese think that it is possible under their constitution and whether a constitutional change is required before they can.

Q Did Shigemitsu indicate an effort would be made to amend the constitution?

A He said that in the democratic and liberal parties, both, a study of possible amendments in the constitution is going forward. This was not, however, directed specifically at the point we are talking about now but a general statement.

Q You mean Article 9 of the constitution?

A No, the constitution in general. As most of you know probably, there has been considerable talk about the desirability of modifying the present constitution in a number of respects and it isn't only Article 9.

Q Could

Q Could you say the long-range view you have is pinned to a six-year defense program by Japan or for a shorter period?

A The Japanese representatives did discuss a six-year defense plan which had been put together by their defense authorities. It has not, I understand, been accepted by the cabinet in Japan as yet but it served as some indication of the thinking within the Japanese Government and it was on that basis that the talks went ahead on this general defense issue.

Q Could you tell us what we thought of this six-year plan? Did it sound reasonable?

A I think perhaps I am going to come close to repeating something I said about ten months ago in here, or eight months ago, after Mr. Yoshida was here. Our military authorities have for a long time said that they did not think that plans along this line were strategically adequate to meet the military threat faced by Japan. However, nobody, as far as I know in the United States Government, has any other thought except that the Japanese Government will make the decision about the level of its forces and it isn't necessary to reach agreement on what the strategic requirements are even in order to have a perfectly effective working relationship, but our military do think that larger forces, ground forces in particular, would be necessary in Japan to meet what they conceive the strategic requirement to be.

Q You mean larger than the projected six-year plan?

A Yes, larger than that, which calls for 180,000 ground forces actually at the end of three years.

Q How many thousand?

A 180,000. The ground force now is 150,000 and the projected plan calls for an increase of 10,000 a year for three years.

Q Can you

Q Can you say anything about the projected increase in army and navy? We are talking about ground forces here but other figures are being tossed around about the over-all number.

A I am sorry, I don't know them.

Q Some years ago Secretary Dulles, in a committee, said it was our belief they needed ten divisions and 350,000 troops. Is that still our thinking that is what the strategic requirements are?

A Roughly that number of men. I wouldn't use the number of divisions because the divisions can be handled in various ways. I think they tend to think more rather than less divisions.

Q About 350,000 troops?

A Yes.

Q I have seen the figure 380,000.

A I think 350,000 is closer.

Q Did the United States argue for the 350,000 figure?

A ~~Nnx~~ I wasn't citing that as something which was discussed but as a long known United States position which has been talked about for a long period of time but this was not the subject of discussion at all.

Q You have talked about the infantry forces. What can you tell us about the discussion of air and naval forces -- Japanese?

A Not very much because it wasn't mentioned. There wasn't that kind of detailed discussion.

Q Did anybody say: "We have got to have 100 jet interceptors" or anything like that?

A No.

Q The

Q The six-year plan could include a build-up in five years of the Japanese air force?

A Yes, and to that extent there was a presentation of what the thinking of the Japanese defense authorities has been.